

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

— 特別展覧会「禅 — 心をかたちに —」—

ほとけ

仏はここに!!



図1 《十八羅漢像のうち「羅怛羅尊者」》  
 范道生作 萬福寺蔵

## ★この人は誰？

図1は羅漢の一人で羅怛羅という名前です。羅漢というのは釈迦の弟子で、尊敬を受けるのにふさわしい聖者のことです。羅怛羅は釈迦が王子だったころの子どもです。釈迦が家を出て修行し、悟りを開いて人々を教え導くようになってから、その弟子となり、十大弟子、十六羅漢の一人に数えられるようになりました。

## ★何をしているの？

上半身は裸、両手で自分の胸を開いています。胸の中には、仏の頭部があります。人間には誰にでも仏になれる可能性がある、と仏教では教えます。いろいろな欲望に振りまわされてそれがわからないでいるのが普通です。それを自覚し、迷いを断ち切れば仏になれるのです。羅怛羅は、自分の中に仏はいますよ、と示しているのです。



「羅怛羅尊者」(部分)



「羅怛羅尊者」(部分)

## ★とても変わった顔をしている

頭の上が盛り上がっています。これは仏と同じで、脳が発達してふくらんだのです。顔は個性的ですね。団子鼻で眉、ひげは巻き毛。後頭部は髪の毛があってこれも巻き毛です。開いた口から見えるのは上の前歯2本だけ。目は吊り上がって一重の上まぶたがおおいかぶさる形です。耳には大きなイヤリングをしています。日本人には見えませんね。羅怛羅はインド人ですが、インドに似た人がいるでしょうか？

## ★いつ、だれが造ったの？

江戸時代、1664年に范道生という中国人の仏師が造りました。范道生は中国から長崎に来ていたのを隠元という同じく中国から来たお坊さんに呼ばれて日本でたくさん

仏像をつくりました。隠元は京都に招かれて萬福寺というお寺を建てました。萬福寺には范道生が造った仏像のほか、清（当時の中国の国名）から輸入した仏像もあります。

### ★何で造られているの？

木です。それも清から輸入されたチーク材です。江戸時代の日本は鎖国と言って外国との交流は基本的にはしていませんでしたが、例外として九州の長崎で中国、オランダとは交易をしていました。長崎には中国人の住む地域が設けられ、中国から渡って来た人々が造った寺がありました。そこにも范道生の仏像や輸入された仏像がたくさん残っています。

### ★萬福寺はどこにあるの？どんなお寺？

京都府宇治市にあります。JR奈良線、京阪電車の「黄檗」という駅から歩いて5分のところです。江戸時代、寛文元年（1661）に創建された頃の建物がすべて残っています。一度も火災に遭っていないのはとても貴重なことです。

境内には中国的な雰囲気満ちていて、お坊さんの読むお経も漢字を唐音で読むので、ほとんど外国語です。リズムも独特です。お坊さんが食事をするお堂の前には大きな木製の魚を吊ってあって、食事の時間を知らせるときにこれをたたきます。

### ★隠元はどんな人？

隠元隆琦（1592-1673）は中国の福建省にある黄檗山萬福寺の住職でした。中国でも有名な高僧だったので、長崎に住んでいた中国人が熱心に招いたのです。承応3年（1654）それにこたえて来日。長崎に滞在し、中国人の僧を何人か呼び寄せました。隠元は中国に帰るつもりだったようですが、万治元年（1658）江戸幕府に招かれて第4代将軍徳川家綱に会い、家綱が隠元のために寺を建てることを約束したので日本に留まりました。そして出来たのが萬福寺です。

### ★萬福寺の宗派は？

禅宗の一派である黄檗宗です。日本には鎌倉時代に栄西、円爾、蘭溪道隆などの僧により臨済宗が、道元により曹洞宗が中国から伝えられ、江戸時代にも続いていました。隠元が伝えた禅はその二つとはかなり異なるものだったので、日本の禅宗にも大きな影響を与えました。また、隠元をはじめ中国から来日した黄檗僧の書は、日本の書に新風を吹き込みました。抹茶が主流だった茶の湯にも煎茶の文化を加え普及したのは黄檗僧です。

ひとつの作品の周辺に、さまざまな世界が広がっていることがおわかりいただけましたか？

（京都国立博物館 浅見龍介）